

JACME Newsletter No. 15



一般社団法人 日本医学教育評価機構
Japan Accreditation Council for Medical Education

令和6年9月 発行

巻頭言

「これから日本医学教育評価機構に期待すること」

横手 幸太郎 [千葉大学 学長]

[一般社団法人 日本医学教育機構 前副理事長、全国医学部長病院長会議 前会長]



2022年から2年間、全国医学部長病院長会議（AJMC）の会長として、日本医学教育機構（JACME）の副理事長を務めさせて頂きました。当初は会議もオンラインばかりでしたが、最後の1年は理事会にも対面開催が戻り、寺野彰理事長をはじめ、関係の皆さまとも直接お目にかかれたことを嬉しく思っております。

さて、昨2023年は共用試験の公的化、今年2024年は医師の時間外労働の上限規制がそれぞれ法律のもとで施行されるなど、医学教育に携わる者にとっては大きな変化の時期でした。そして、この間、現場から聞こえてくるのは、ひたすら「業務負担の増加」と「人手不足」を嘆く声です。時間外労働の削減は、本来「働き方改革」の一丁目一番地と言えます。すなわち、少子高齢化により労働力人口が減少する中、年齢や性別を問わずあらゆる人が健康で活躍できる社会を目指すための「働き方改革」ですから、本来は歓迎されて然るべきですが、現場にその実感は乏しいようです。それは、長年にわたり日本国内に築かれ、維持されてきた医療制度の基本構造に手を加えることなく、「医師の働き方改革」だけにメスを入れたからに他ならないでしょう。

タスクシフトやタスクシェアが十分に行き渡らなければ、これまで医師の長時間労働に支えられてきた現場は廻らなくなります。特に大学病院では、従来、診療・教育・研究に加え、常勤または非常勤の形で全国各地域への医師派遣を行ってきました。公立・民間を問わず、さまざまな病院が、相互の機能分担なしに地域の都合のままに乱立している状況下では、労働時間の縮減によって派遣医師が減少すれば、各病院の機能が廻らなくなってしまいます。医師の地域偏在もさらに助長されます。そして、地域派遣の名もとの「アルバイト」に行けなくなった医師は、大学病院の安月給だけでは生活が成り立ちません。診療科間の

偏在も手付かずのままですので、外科などは存続すら危ぶまれてしまいます。

時間外労働の上限規制が始まる前、2023年度の時点でAJMCが行ったアンケート結果によれば、大学病院における助教の業務量の約7割は診療に充てられ、研究・教育に従事する時間はそれぞれ10%前後でした。本年の4月以降の調査結果は未集計ですが、状況がさらに厳しくなっていることは想像に難くありません。すなわち、改めて、大局的に「医師の働き方改革」「地域医療構想」「医師・診療科の偏在対策」という三位一体の改革を、待ったなしで遂行する必要があるのです。

そのような時代にあって、JACMEは、2015年の設立以来、日本の医学教育改革と国際標準の質保証を進める上で、重要な役割を果たし、全国から高い信頼を得てきたと認識しています。外部環境の変化に左右されることなく、その理念に沿った歩みを今後もしっかりと続けて頂きたいと存じます。他方、公的化された共用試験の実施や大学病院にあっては病院機能評価の受審など、いつの間にか新たな評価業務が次々と重なり、人数の限られた医学部の教員が、本来の教育・研究とは別の「評価疲れ」に追い込まれている現状も無視することはできないと思われまます。

大学教員が、自分の行うべき教育・研究業務に十分専念できる体制を再構築していくことも、今後の日本が発展していくためには不可欠と考えます。理想と現実のはざま、教育現場の持続可能性を考慮しつつ、他の組織とも連携しながらJACMEが指導的役割を果たすことで、日本の医学教育は次のステージへ進むことができるものと愚考する次第です。2年間、お世話になり、有り難うございました。JACMEの益々のご発展と関係者ご一同のご健勝を祈念いたします。

目次

巻頭言「これから日本医学教育評価機構に期待すること」…… P.1
特集1「日本医学教育評価基準 2025年版 Ver.1.0について
-パブリックコメントのお願い-」…………… P.2

「事務局評価事業研修員のつづやき」…………… P.4
JACME からお知らせ …………… P.6

特集1

■日本医学教育評価基準 2025年版 Ver.1.0について —パブリックコメントのお願い—

北村 聖 [一般社団法人 日本医学教育評価機構 基準・要項検討委員会 委員長]



日本医学教育評価機構 基準・要項検討委員会では足掛け3年をかけて、「日本医学教育評価基準 2025年版 Ver.1.0」(以下、評価基準2025年版と略す)の作成を検討してきた。ようやく原案ができたので、さる8月1日より、ホームページ上において広く意見をいただきたくパブリックコメントを開始した。本稿では、基準の改訂の経緯と、新しい基準の概略を紹介し、パブリックコメントで意見をいただけるよう勧奨したい。

新しい評価基準に至る背景

評価基準2025年版(案)に書かれている評価基準作成の経緯に基づいて、ここまでの背景を述べる。国際保健機関(WHO)の下部組織である世界医学教育連盟(WFME)が、2003年に医学教育の基本となる医学部卒前教育について国際基準「医学教育の国際基準2003年版(basic standard)」を公表した。当時、我が国では、大学をはじめとする高等教育機関における教育の質保証は機関別認証評価が主なもので、分野別評価は助産師教育などごく一部の分野で行われておらず、分野別認証による医学教育の質保証は実施されていなかった。

国際基準に則った医学教育の評価の試みはいくつかなされたが、大きな第一歩は、WFMEが公表した基準に準拠して日本医学教育学会が日本版評価基準を2012年に公表したことで、医学教育の分野別評価への道が拓かれることになった。これを後押ししたのが、米国での外国人に対する医師資格付与制度の変更であった。従来から米国の外国医学部出身者受験資格はWFMEの「医学部リスト」に名を連ねていれば自動的に与えられていたが、2010年に米国の外国医学部出身者卒業後教育委員会 Educational Commission for Foreign Medical Graduates (ECFMG) が「国際基準に基づいて認定された医学部の出身者にしか ECFMG 申請資格を与えない」との通告を発し、我が国でも国際基準に基づいて医学部教育を評価し、認定する必要性に迫られた。その当時は、認証機関もないため、当然のことながら、米国 ECFMG の要求する基準を満たす医学部は我が国には存

在しなかった。そのため、もしそのままの状況であったならば、日本の医学部を卒業しても米国で医師になることができない状況になってしまうことになった。そこで、2011年に全国医学部長病院長会議に医学教育質保証委員会を発足させて医学部教育質保証の制度設計を検討し2012～2016年には文部科学省大学改革推進事業「国際基準に対応した医学教育認証制度の確立」によって医学部教育の評価制度に係る調査研究が実施された。我が国で日本版基準を2011年に上梓したばかりであったが、WFMEは「医学教育の国際基準2012年版」を公表したため、それに準拠した評価基準日本版が文部科学省大学改革推進事業によって2013年に作成された。この評価基準を用いた医学教育評価が試行として2013年新潟大学から開始された。その後、WFMEは、2015年9月に「医学教育の国際基準2015年版」を公表した。これに伴い、2015年12月1日に設立された日本医学教育評価機構(JACME)では、「医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.1」を2016年に作成し、公表した。その後、現在に至るまで、具体的には、82医科大学が2巡目の評価を受けるまで、この評価基準日本版は細かい改訂を繰り返しながら、各医学部における医学教育評価で活用されてきている。なお、日本医学教育評価機構は2017年にWFMEから国際的に通用する医学教育評価機関であると認定され、以降は正式な医学教育評価を行っている。すなわち、日本版評価基準に基づいて評価し、認定された医学部は国際医学教育研究推進財団 Foundation for Advancement of International Medical Education and Research (FAIMER) に登録し、もって ECFMG の通告にも適うこととなった。

その後、WFMEは2020年に世界の価値観の多様性を踏まえて新たな国際基準2020年改訂版を公表した。この基準は、従来の基準とは大きく異なり、各国でその国の文化・宗教等に合わせて独自の基準を作ることを容認し、その基準のあるべき姿を示したものになっている。これを反映して、日本医学教育評価機構は「医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2」を基に、我が国における文化と伝統に沿った我が国独自の「日本医学教育評価基準2025年版 Ver.1.0」を

作成した。名称は国際標準の日本版という位置づけから日本独自の基準であることがわかるものに変更し、この度、原案としてパブリックコメントを募集することとした。評価基準は、大学設置基準や医学教育モデル・コア・カリキュラム、必修化臨床研修など、日本において制度が確立されている項目を整理した。

新しい評価基準の特徴

新しい基準の特徴を、その序文を基に紹介する。繰り返になるが、この度原案を示した2025年版基準は世界医学教育連盟 World Federation for Medical Education (WFME) による医学教育国際基準を基盤とし、日本の文化・伝統と実情に沿って編纂され、我が国独自ではあるが、我が国における医学教育の国際的質保証の指標となるものである。すなわち、医学部が国際基準によって評価・認証されることにより、卒業生の資質・能力が保証され、国際的な活躍への道が開かれることに繋がる。それぞれの医学部における自己点検評価においては、評価基準の各項目・水準に関

して、情報（根拠資料）に基づいて現状分析と自己評価を行い、短期的および中長期的な対応と改善に向けた計画を示すことが求められる。また、外部評価の際にも、評価基準に基づいた自己点検評価と実地調査を基に、評価基準に則って提言がなされる。この評価基準は従来の「医学教育分野別評価基準日本版 世界医学教育連盟 (WFME) グローバルスタンダード2015年版準拠」を基礎としつつも、今までの経験などを基にして、評価基準をより明瞭に解釈し理解できるよう工夫している。医学教育の国際基準は、医学教育の質向上・改善を目標とするものであり、その中では、それぞれの医学部における独創的で特色ある取り組みが促進されることが期待される。各医学部が掲げる使命と価値観、理念、目標を活かし、地域の文化や伝統を踏まえつつ、さらなる発展を奨励するものである。なお、2025年版 基準そのものも、今後の社会の環境や価値観の変化に伴い、社会の要請に応じて改訂、改良を重ね、国際的見地から日本の医学教育がますます向上するよう、不断の改革を継続したい。

パブリックコメントのお願い

今まで、縷々述べてきたように、日本医学教育評価機構 基準・要項検討委員会では、世界医学教育連盟 (WFME) が公表した国際基準2020年改訂版を反映し、「医学教育分野別評価基準 Ver.2」を基に、我が国独自の「日本医学教育評価基準 2025年版 Ver.1.0 (案)」を作成いたしました。

「日本医学教育評価基準 2025年版 Ver.1.0 (案)」につきまして、意見を賜りさらに検討を深めて最終的に決定いたしたく、日本医学教育評価機構ホームページにおいて、意見募集 (パブリックコメント) を実施しています。全体的な構成から、誤字脱字に至るまで、忌憚のないご意見をいただきますよう、お願い申し上げます。

<https://www.jacme.or.jp/public-comment.php>

～事務局評価事業研修員のつぶやき～

「JACMEへ出向して」

安田 雅志 [山口大学]

令和6年4月1日付けで山口大学から日本医学教育評価機構（JACME）へ研修員として着任しました、安田と申します。私は山口県の出身で、国立大学法人山口大学に令和2年に採用されました。配属は山口大学工学部会計課で、主に予算管理を行い、その後、課内異動となり契約・施設管理の担当を行っておりました。読んでいただく通り、教務関係はおろか、医学部の経験も全くない状態で、今回ご縁があり派遣されています。

私が今回のお話をいただいた際に思ったこと、また実際に着任して研修員としての業務などを紹介したいと思います。今後研修員を検討されている大学に置かれましても、私の経験が参考の1つにでもなれば幸いです。

まず、先述のとおり、これまで私は医学教育に全く関わることがありませんでしたので、最初は不安の方が大きい中での着任でした。ただそういった中でも、大学にかかわる職員として様々な形で貢献をしたいという思いはありましたので、積極的に業務に関わっていきました。当初は右も左もわからない状況でしたが、事務局の皆様の温かいご指導もあり、着任をして早4か月を過ぎた今では業務を理解しつつ、当初とは違う景色が見えるようになりました。医学教育に今まで携わった経験のない方でも業務の中で学び吸収することが可能ですので、出向を検討されている際は、臆することなく挑んでいただけたらと思います。

業務については、現在、評価事業担当という部署に所属

しており、医学教育分野別評価における実地調査および当機構主催の講習会や会議の運営に携わっております。

実地調査では、受審をする大学へ実際に赴き、自己点検評価に関する資料の検討会議や学生や教員の面談等を行います。受審大学が行っている医学教育に対して良い点と改善点を確認することを目的としており、その後、内容をまとめた評価報告書をもって良い点の改良と改善点の改善を目指す体制を整えられるよう評価を行っております。評価事業担当では、医学教育分野別評価に向け、受審大学に対してどういった準備が必要か案内をするとともに、実地調査では評価を行う評価員と協力しながら、円滑な評価が行えるようにサポートをしております。

受審を控えている大学に置かれましては、日々の業務もある中で医学教育分野別評価の準備にも追われている状況かと思えます。自大学も令和8年度に医学教育分野別評価の受審が控えている中で、実際の受審をイメージしながら業務に取り組んでおります。教職協働で臨む医学教育分野別評価です。一緒に頑張りましょう。

東京での生活は予想を大きく上回る満員電車から始まりました。都会の洗礼を受けながらも仕事でもプライベートでも充実した日々を送ることができています。本稿が出向を検討されている方への参考の1つにでもなれば幸いです。

～事務局評価事業研修員のつぶやき～

「JACMEへ出向して」

阪井 亮介 [愛知医科大学]

令和6年4月1日付けで愛知医科大学から日本医学教育評価機構（JACME）へ研修員として着任しました、阪井と申します。私は平成30年に学校法人愛知医科大学に入職し、附属病院にて人事担当や災害担当、研修センター事務などをしておりました。医学部での業務経験もないため、出向に際し不安もありましたが、JACME事務局の皆様や評価員の先生方に暖かく迎え入れていただき、日々学んでいます。

現在は事務局にて、過去の研修生と同様に評価事業を担当し、医学教育分野別評価における実地調査および評価に関する講習会や会議の運営に携わっております。

医学教育分野別評価では4日間の実地調査において、学生や教員との面談、施設・実習の見学および受審大学が作成した自己点検評価書に関する検討会議等を行います。

自己点検評価の信頼性・妥当性の確認や、面談等を通じて情報収集を行うことで、評価の確実性を再確認することが実地調査の大きな目的となっています。4日間にわたり、多くの方々にご協力いただくため、大学側の負担も大きく、実地調査にばかり目が行きがちになってしまうかと思いますが、調査の基本となるのは自己点検評価であるため、ま

ずは評価基準に則りながら、明確な根拠を基に自己点検評価書を作成することが肝要です。

また、今後評価を受審する予定の大学に向け、研修員制度について触れておきたいと思います。研修員は、受審の前々年度にJACMEへ出向して研修を行い、受審前年度は自大学に戻り準備をする流れとなっており、各年度2名まで受け入れが可能です。実地調査に同行し、評価員の先生方が着目する点や質疑内容など、研修員だからこそ見ることができる点が多くあります。どこの大学も人手不足で、一年間職員を出向させるのは難しいかもしれませんが、出向したからこそそのメリットがあります。必ずしも医学部での勤務経験を要するわけではありませんので、ぜひ研修制度を活用いただければと思います。

最後になりますが、昨今、外部評価による教育の質保証が重要視されています。医学教育は大学だけで行うものではなく、卒前・卒後も含めて附属病院など関連施設と協力しながら体制を構築していくものだと考えています。医学教育分野別評価を通じて大学・病院間の連携を強化しながらより良い教育体制の構築を目指していきましょう。

JACME からお知らせ

1 賛助会員について

当機構は、全国82大学医学部等の総意として、国際基準を踏まえて各医学部の教育プログラムを評価して教育の質を保証します。それにより、臨床能力の高い優れた医師を養成し、もって国民の健康向上に貢献することを目的とします。

医学部・医科大学等の教育の質を高めることは、我が国における医療の水準を一層高め、ひいては我が国の医療を側面から支えている関係各界の発展に資すると考えています。

このような当機構の事業を安定して行うための基盤としまして、以下のとおり各界有志団体等の皆様から、賛助会員としてご支援を仰いでおりますので、よろしく申し上げます。

1) 賛助会員の資格について

当機構の事業に賛同していただける企業等の皆様にご入会いただけます。

(当機構理事会での承認が必要になります。)

2) 申し込みについて

賛助会員に入会される場合は、所定の入会申込書に必要事項をご記入のうえ、当機構事務局あてにお送りください。

3) 賛助会費について

年会費は、1口100,000円です。入会が承認されましたら、請求書をお送りいたしますので、当機構指定口座にお振込願います。1口以上何口でも結構です。

4) 会員登録について

会員名簿に登載のうえ、理事会及び総会において報告させていただきます。

また、当機構広報誌、ホームページ等にご芳名を掲載させていただきます。

現在ご協力いただいている賛助会員

2024年7月25日現在

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ☆ 旭化成ファーマ 株式会社 | ☆ 株式会社 医学書院 |
| ☆ 医歯薬出版 株式会社 | ☆ 公益財団法人 医療研修推進財団 |
| ☆ 株式会社 京都科学 | ☆ グリーンホスピタルサプライ 株式会社 |
| ☆ GEヘルスケア・ジャパン 株式会社 | ☆ GEヘルスケアファーマ 株式会社 |
| ☆ シスメックス 株式会社 | ☆ 第一三共 株式会社 |
| ☆ 中外製薬 株式会社 | ☆ 株式会社 ツムラ |
| ☆ 株式会社 日本医事新報社 | ☆ 株式会社 羊土社 |

(50音順)

■お問い合わせ窓口

日本医学教育評価機構事務局 担当：五味・齋藤

〒113-0034 東京都文京区湯島1-3-11 お茶の水プラザビル6F

TEL：03-5844-6736 E-mail：info@jacme.org

2 令和6年度医学教育分野別評価認定大学情報

当機構では、認定が確定した大学を公表しています。医学教育分野別評価は、書面調査及び実地調査により実施しています。書面調査は各医学部・医科大学が作成した自己点検評価報告書及び根拠資料等の精査により実施し、実地調査は、書面調査では確認できなかった事項について調査します。認定結果の詳細については、当機構ホームページの「認定大学情報」をご覧ください。

【1巡目】

2024年6月現在

大学名	認定期間
高知大学	2024年6月1日～2031年5月31日
国際医療福祉大学	2024年6月1日～2031年5月31日
東北医科薬科大学	2024年6月1日～2031年5月31日

【2巡目】

2024年6月現在

大学名	認定期間
藤田医科大学	2024年6月1日～2031年5月31日

☆ JACME の詳しい情報は今すぐホームページへアクセス！

当機構の概要や評価事業の内容、医学教育分野別評価基準日本版、受審要項、認定大学の情報などを掲載しています。

<https://www.jacme.or.jp/>

編集後記

安元 佐和 [福岡大学医学部 教授]

今回の Newsletter は、社会や医療の急速な変化に即した日本の医学教育の進化と質保障がテーマとなりました。『巻頭言』は、JACME 前副理事長および AJMC 前会長を務められた横手幸太郎先生に「これから日本医学教育評価機構に期待すること」と題して、昨今の医師の働き方改革と医学教育の質保証における課題、JACME への期待についてご執筆いただきました。『特集1』は JACME 基準・要項検討委員会 委員長 北村聖先生に「日本医学教育評価基準2025年版 Ver.1.0について」、新しい評価基準に至るまでの背景、新しい評価基準の特徴について詳細にご報告いただき、新基準についてのパブリックコメント募集が告知されました。今回の Newsletter が各施設の医学教育の向上の一助になれば幸いです。

【編集発行】



一般社団法人
日本医学教育評価機構

広報委員会 委員長：鈴木 利哉
委員：栗林 太、ブルーヘルマンズ ラウール、
安元 佐和、山口 久美子 (50音順)

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-3-11 お茶の水プラザビル 6F

TEL:03-5844-6736 FAX:03-5844-6737

<https://www.jacme.or.jp> E-mail: info@jacme.org

【JACME Office】

- JR 中央線「御茶ノ水」駅 徒歩5分
- 東京メトロ丸の内線
「御茶ノ水」駅 徒歩5分
- 東京メトロ千代田線
「新御茶の水」駅 徒歩5分

